

2 学期終業式講話

おはようございます。

本日で2学期が終了いたします。皆さんにとってどんな2学期だったでしょうか。

世界はロシアのウクライナ侵攻に加え、イスラエルのガザ地区侵攻と戦争は拡大していますし、国内では自民党のパーティー券の金券問題と明るくない話ばかりです。唯一メジャーリーグで活躍している大谷翔平選手の話が明るくしてくれているだけです。本当に先行きの見えない中で、本校の探究学習はそれを克服するための力をつける教育をしているところです。

さて、今日はお金を稼ぐということをお話したいと思います。お金を稼ぐということは嫌なこともやらなくてははいけないということを知ってほしいです。そこが学生と社会人との大きな違いで、学生は大学や専門学校で資格を取りたいとか、サッカーや野球をやりたいとか自分のやりたいことをやる場所である以上、お金を支払うわけです。逆に社会人はお金を稼ぐということです、当然のことながら意味合いが違ってきます。

3年生は現段階で8割方進路が決まっています。残りの2割の進学希望の方は来月の共通テストに向けて頑張ってもらいたいわけですが、偏差値50を超えるということは大変なことです。このあたりですといわゆる進学校と呼ばれる高校の生徒さんたちから50以上という数字が基準ということになりますから、そこで勝負するならば相当な勉強をしなくてはならないということです。

20人ほどの就職内定の方は今言ったお金をいただく以上は、嫌なこともやらなくてははいけないということを感じてほしいと思います。

先日、皆さんの中でアルバイトをされた方の報告書が私の所に回ってきました。それを見ると今では時給が900円以上で私の学生の頃の倍額になっています。そうした中でおそらく働くということが、いかに大変かということを実感した人もいるでしょう。

私は学生時代に親の仕送り以外に自分の好きに使えるお金がほしくてアルバイトをしました。最初に行ったのが引越しのアルバイトで、これはきつかったですね。重い荷物を運ぶだけではなく、そこに住む人から「ここに運べや」とか、「何もたもたしとんねん」とか言われて大変でした。終わった後、聖徳太子、厩戸皇子の肖像画の5000円札を手に入れました。その時は嬉しかったですね。

次はマネキンを運ぶアルバイト、そしてウェイターは以前お話ししたので、漬物屋のアルバイト。これは大学が京都でしたので、漬物屋があってそこで梱包作業を行うわけです。終日立ちっぱなしで、一度タイムカードを5時5分で押したところ、5時5分から6時までの55分はまったくのただ働きであったことを知りました。それから京都の映画村の屋根裏の配線工事の仕事で、これは冬場でしたから手がかじかんでたまらなかったです。

ペンションの住み込みのアルバイトは、テニスができるからという理由でしたが、ローラ

一引きや布団の上げ下げ、そして風呂やトイレ掃除と一日中働かされました。飼っていた鶏を外に出したところ、鶏が野生化して空を飛ぶんですね。これを捕獲する仕事もさせられました。働くことは大変なことだ、お金を稼ぐということは大変なことだと、アルバイトを通じて勉強させられました。

教員になって働いて嫌だったことは、県庁の教育委員会に勤めている頃で、全然知らない予算のことがわからなくて近くの若い者に聞いたところ、「使えない」と言われ、電話をかけていると後ろから「そんなことは言っていないぞ」とか横槍を入れられたりとかされたことですね。まったく学校とは違う世界のことをやらされるわけですから、当然と言えば当然ですが、それでもお金をもらっている以上はという意識はありました。

しかしお金をもらうだけで仕事をするととなかなか難しく割りきれないものがあり、やはりそこに社会貢献をしているんだという気概が大事かと思います。自分が仕事をしていることが社会のためになっているんだと実感できることが大切です。

そういう意味では富士市立高校の皆さんは、社会貢献という面では素晴らしい要素を持っています。これは近隣の高校でアンケートをとった時に、本校生徒が一番高い数値でした。「社会のために何かをしたい」という気持ちを強く持っているのは本校の生徒の大きな特色であり、私の一番好きなことでもあります。一番の自慢であります。こうした社会に貢献するんだという気持ちを忘れずにいてほしいと思います。

結びに、冬休みは短いですが読書をして何か目的をもって過ごして、よいお年をお迎えください。以上で講話を終わりたいと思います。

(令和5年12月21日、終業式)